



発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
 編集 坂野慎治
 題字 島崎洋路

通年コース第十二・十三回開催報告

『炭は夜に』

「炭焼き・きのこ菌打ち、復習」

十二月も中旬だというのに暖かい晴天のなか、早いもので、今年度最後の通年コースの開催です。

一日目は、まず炭焼きから。旧国立林業試験場(現・森

林総合研究所)で開発された移動式炭化炉とアカマツ材の組み合わせ。地面をなるべく水平に整地したところへ一段目を置き、内側・外側ともに地際を隙間なく土で目止め。



そして、点火

中央に煙道となるよう枝などを縄で結んで丸めたものを立て、地面を敷木で覆う。煙道が倒れないように支えながら、その周囲に新材を詰め込んでいく。一段目も三段目も。その上に、よく乾いた短い薪や木っ端を積んで、焚き付けを山盛り。各段のつなぎ目を泥で目止めしたら、点



煙の色や匂い

火です。思いのほか早い時間に点火となったので、チエーンソー製材に挑戦。島崎先生の実演のあと、興味のある方がサワラの丸太を挽いてみました。午前中の最後には炭化炉の最上段を設置。
 午後は、炭化炉の蓋をして煙突を四本立ててから、きのこの菌打ち。コナラの原木にシイタケの種駒という組み合わせ。一本の原木に植菌する種駒の数の目安は、原木末口の2〜2.5倍。種駒の径は生産業者によって違うので注意が必要。今回は森産業の290というもので、9・2

mm。原木に高速ドリルで千鳥に穴をあけたら、木槌で種駒をたたき込んでいきました。菌打ちも早々と作業を終え、15時過ぎには忘年会の準備へと。ときどき炭化炉の様子を見て、煙突を移動させたり穴を塞いだりしながら、小屋の中では鍋に酒。そして炭化炉は、20時を待たずに窯止めとなりました。

二日目は、朝一番の炭出しから。ときどきしながら窯をあけると、全く燃えていない木っ端や燃え残りの材とちやんと炭になってるものとが混ざり合った状態。炭化炉の注意事項には、強風の日は避けるとか、厳寒期や大雨の際は炉が冷えて未炭化になりやすい、とかありますが、今回の場合は午前中の火の回りが速く、午後になって少し北風が吹くようになっただけでしょう。しかしながら炭の全重量は56kg程と収炭率は高い模様。窯の掃除をしたら、見学班と伐出班にわかれそれぞれ目的地向。見学班は、長谷の保科先生の山へ。戸台



炭化炉の仕込み



千鳥に穴あけ

のカラマツ林では、大径材仕立ての林分で、その樹幹距離を体感し、枝下高や胸高直径に驚いたことでしょうか。伐出班は、小屋近くのますみヶ丘の一角で、二年生とOB班・一年生班の二組で伐木造材とキヤトラ集材の作業を交代で行いました。

そして、最後に修了式。四名の皆勤参加の方々をはじめ、九回以上の精勤の方々、二年目参加で精勤の方。皆様それぞれに万難を排し、ご参加くださったことと思ひます。ありがとうございました。今後とも何らかの形でお付き合いをしていただければ幸いです。お疲れ様でした。

通年コース第十二・十三回
12月12日(金)
炭焼き
きのこ菌打ち

8時30分
島崎先生の山小屋集合。島崎先生の挨拶のあと、早川講師の炭の性質や移動式炭化炉の特徴などの講義。



種駒を木槌で

9時15分
移動式炭化炉での炭焼き準備。設置する地面をなるべく水平に整地する。空気口兼煙突口が8つ付いた一段目を設置。地面との隙間をなくすために、内側・外側とも地際を土で目止め。ここで煙道にするための細長い枝などを縄で結んで中央に立て、地面を敷木で覆う。煙道が倒れないように支えながら、その周りに新材を立て込んでいく。中央に太めのもの、周辺に細めのものを隙間なく。二段目をかぶせたら、また新材を詰め込み、三段目。やっぱり新材を詰め込んで、その上に木っ端と焚き付けを山と盛る。各段のつなぎ目を目止めしたら、

10時20分
点火。
10時35分
キノコの菌打ちの準備にと原木支え足を作りながら、ときどき炭化炉に乾いた新材を補給。
11時
移動式炭島崎先生による口ゴソールでのチェーンソー製材実演。サワラの丸太を板に挽く。希望者は実

際に製材してみました。また、角材も挽いてみました。この間も、ときどき炭化炉の状態を確認しながら、
11時30分
最上段を設置して、蓋の穴から木っ端を補給。
12時
昼食。
13時
炭化炉の蓋をして、煙突を四本立てる。

13時25分
早川講師による菌打ち方法や管理の説明と実演。今回はコナラの原木に、森産業の290というシイタケの種駒。
13時50分
菌打ち開始。穴あけ班は、二・三人一組で、支え足に原木をのせて、高速回転のシイタケドリルで、千鳥に穴をあけていく。一列穴をあけたら、原木を60度程まわして。駒打ちは各自木槌で。地面に落としてしまった種駒は廃棄しましょう。駒の打ち忘れがないよう確認しましょう。
14時30分
60本程あった原木に早くも菌打ち完了。原木は持ち帰り可能ですので、自宅栽培



炭の出来栄は？

15時20分
講師講評で一応作業終了。忘年会の準備に取り掛かる。
17時
シカ肉やシシ肉・冬野菜など盛りだくさんの鍋や煮付けに、各地の日本酒で宴会が始まる。
19時40分
早川講師の指導のもと窯止め。あとはじっくり炭化と鎮火。忘年会はまだまだ続く...



12月13日(土)
復習

8時30分

島崎先生の山小屋集合。マ
スクや軍手・タオルなどで
完全防備をして炭出し。
ちゃんと炭になってい
るものもあれば、燃え残っ
ているものもある状態。そ
れでも炭の重量は合計で56
kg程も。炭もお持ち帰り
いただけます。

9時40分

伐出班は、小屋近くの伐木
造材を行った林分で、一年



樹幹距離・枝下高・胸高直径

10時40分

生班と二年生・OB班に分
かれて、伐倒とキヤトラ
集材。見学班は長谷の保科
先生所有山林へ向かう。以
降は見学班の様子を。

11時10分

調査林分で保科先生の説明
を受ける。ここは標高13
00mほど。45年生だった
昨年に関伐を実施。ヘク

12時50分

仙流荘手前の日当たりのよ
い林道脇まで戻り、小黒川
を眺めながらお弁当。
毎年保科山林見学の時は寒
さに震えながらお昼をい
ただくが、今年はほかほか



大径材を目指して

13時20分
陽気で暖かい。

楽しんで橋手前で保科先生
とお別れし、橋を渡って林
道へ入るが、水切り部分が
荒れていて、千田号と土屋
号がすぐリタイア。軽トラ
の荷台でピストンとなる。
大急ぎで標高1200m
のカラマツ林を見学。先ほ
どの戸台に比べ地位がよ
く、38年生ながらすでに樹
高は26mを超えている。こ
こも昨年関伐を終了し、ヘ
クタール230本にして
あり、とても明るい。

14時

でこぼこ林道を駆け降り、
さあ、見学終了。

15時20分

見学班・伐出班ともに小屋
へ戻る。

15時40分

修了式。全日程出席の四名
の皆勤の方々、九回以上出
席の皆勤の方々、二年目で
精勤の方に修了証を。

16時20分

早川講師・島崎先生の総

評。記念撮影をして終了、
解散。お疲れ様でした。

参加者/北沢さん、北原さ
ん、白鳥さん、千田さん、
高玉さん、鷹野さん、舟山
さん、北條さん、山崎(真)
さん、山崎(欽)さん、田
村さん、東村さん、水野さ
ん、熊木さん、園田さん
講師/早川講師
スタッフ/小泉、川島、坂野

リレー通信



森林資源の
有効活用のために
川村 孝夫

森林塾卒業生の皆さん、こ
んにちは。今回埼玉県から参
加しました川村です。今年五
十歳と人生の中間点にさしか
かり、コンピュータ会社での
今の仕事は残念ながらあまり
世の中の役に立っているとは
感じられず、残りの人生を世
の中が必要としている事に
自分の力を少しでも役に立
たいという思いが強くなって

います。とは言ってもなんで
もいいわけではなく、自分の
好きな分野で自分自身がやっ
ていて楽しく、その上必要と
している人が喜んでくれるよ
うな仕事がしたいです。

私はもともと自然のなかで
体を動かすことが好きです。
今の会社に入る前は農業も体
験しました。日本の自給率向
上のためにはそちらも人手が
必要ですが、今は林業の世界
に入りたいと考えています。
ではなぜ林業か？それは、循
環型社会の構築のためには日
本が自給できる森林資源を有
効活用する必要がある、と
思っているからです。

地球温暖化が声高に叫ばれ
て来た昨今、環境に関する本
を読んだりセミナーを受講し
ているうちに、森林文化アカ
デミー前学長の熊崎さんの講
演を聞き、森林資源を活用す

ればエネルギーの自給や地域社会としての自立ができる可能性を感じました。これからの日本が循環型社会を築いていくためには、森林資源の有効利用が欠かせない、そういうシステム作りに参画したい、と思っけています。そのために、今できる事はなにか、これからやるべき事は何なのか？

コースに参加予定でしたが、会社の仕事が忙しく秋のコースになりました。コースでは、特に森林の育成についての知識を得る事ができ、とても良かったです。またチェンソーの取り扱いも学べて、これから埼玉の家に戻ってから参加しようと考えている森林ボランティアではきつと役に立つと思っけています。

今は全く森林とはかけ離れた生活をしているので、まずは山に近づく事が必要だ、山の事を全く知らないのでは、前述のシステム構築のための基礎を知らないという事になるので、まずは間伐、枝打ち、除伐、つる切り、下刈りなどの森林整備の知識、技術を身につけなくては話にならない、と思っけています。色々な森林に関する雑誌や本を読みあさり、鳥崎さんの「山造り承ります」に出会い、KOAさんで一般向けに前述の目的にかなう研修を開催している事を知り、早速申し込みました。本当は今年の夏の集中

せつかく学んだ知識技術を忘れないためにも、定期的に山仕事が必要だし、間伐が必要な日本の森林の現状、人手が足りなくて森林が整備されない現状に、森林ボランティアを通じて少しでも寄与できると思っけて、前述のシステム構築のための手探りでの道探しのためにも、森林関係者と一緒にでも多く知り合いたいと思っけています。

熊崎さんの講演では、森林資源を利用したエネルギー自給の仕組みとして北欧の成功例が報告されていましたが、最近読んだ本に、若手県住田町で、住田木材コンビナー

ト」と呼ばれるものが構築され、製品としての木材生産はもちろんの事、廃材を使い切るゼロエミッションを眼目において活動しているよつです。岩手は私の出身地でもあり、故郷で

就職の問題、家族との生活の問題をどうするのか、目下の人生最大の重大事です。また日本の森林資源を有効に活用するためには時間も限られていくよつです。その辺りの事情は、二〇〇三年に出された経済同友会の提言「森林再生とバイオマスエネルギー利用促進のための21世紀グリーンプラン」および関連の情報に詳しいのですが、それらによるとあと十年が勝負とのこと、私の五十歳代と重なるこの期間にやはり何かをしないではいられない気持ちです。今回「縁があつた森林塾参加者の皆さん、およびOBの皆さんと今後とも情報交換させていたきたいとおもいますので、どうぞよろしくお願ひします。

また、体力のほうもそれなりに衰えてきていますので、果たして山仕事ができるのか、という心配もないわけではありませぬ。しかし、残りの人生を、幕末の志士たちのよつに、日本のためそして循環型社会構築を通して地球環境の改善に寄与する事で、ひいては世界のために働きたいと思っけています。



「ト」と呼ばれるものが構築され、製品としての木材生産はもちろんの事、廃材を使い切るゼロエミッションを眼目において活動しているよつです。岩手は私の出身地でもあり、故郷で



ただ年齢が五十歳となると、何かを一から始めるにはちよつと遅い年齢になり、山仕事の実務経験を積むためにどこかへ就職する事はかなり難しい状況だと思われませぬ。とはいえ、まだまだ生活のため

の事は必要です。家族もいるので、今更の大きな業種替え、首都圏から山地へ引つ越し等も家族の理解を得られるか、大きな問題です。また、体力のほうもそれなりに衰えてきていますので、果たして山仕事ができるのか、という心配もないわけではありませぬ。

しかし、残りの人生を、幕末の志士たちのよつに、日本のためそして循環型社会構築を通して地球環境の改善に寄与する事で、ひいては世界のために働きたいと思っけています。

就職の問題、家族との生活の問題をどうするのか、目下の人生最大の重大事です。また日本の森林資源を有効に活用するためには時間も限られていくよつです。その辺りの事情は、二〇〇三年に出された経済同友会の提言「森林再生とバイオマスエネルギー利用促進のための21世紀グリーンプラン」および関連の情報に詳しいのですが、それらによるとあと十年が勝負とのこと、私の五十歳代と重なるこの期間にやはり何かをしないではいられない気持ちです。今回「縁があつた森林塾参加者の皆さん、およびOBの皆さんと今後とも情報交換させていたきたいとおもいますので、どうぞよろしくお願ひします。

樹のニラム

くねね

夏の暑い盛りに、枝いつぱいに白い花とピンクの萼を付けて、爽やかな風のように暑さを忘れさせてくれるよつに咲いていきます。花の中心から長い雄しべと雌しべをのびした優美な姿の花です。果実は秋で、十月から十一月に丸い光沢のある藍色の実を付けませぬ。萼は赤の星形で、藍色の果実とのコントラストが美し



く、遠目からでも良く目立ち花とはまた別の趣がありませぬ。葉は対生で、葉柄は5cmから10cm・葉の幅は5cmから10cm・長さは8cmから15cmと大きいです。相対する葉の葉柄の長さが違つのが見た時の見分け方になります。葉の形は先の尖つたおにぎり形です。

この木の名の由来は、葉や枝をちぎると良い香りのする、花とは想像もつかないよつない何とも言えない臭気があるところからきています。今の私は何だかピタミン剤のよつな臭いだなと思っけています。子供の頃によくこの臭いを嗅いだ記憶があります。父に教わつた遊びで、片方の手を筒状に丸めて、その上に葉を置いて、もう片方の手のひらで葉をたたくと、ぼんと音がするよつという他愛のない遊びですが、その時にちぎつた葉

の臭いがこんな臭いだつたと、当時の幼い私と父の事を鮮明に思い起こさせるにおいでです。大人になつて名前の知らなかつた植物が記憶と合致して、より好きになつた思っけて出の木です。

おわりに

「鶯」

五月の樹木分類に始まつた一連の通年コースで、KOA森林塾は皆様の期待に応えることが出来たでしょうか。これからもお付き合いをして下されば幸いです。ありがとうございました。お疲れ様でした。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994
E-mail: sh-sakano@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062 (開催日)
URL http://www.koanet.co.jp

